

件名	加賀市定住促進協議会 第4回 加賀市版「生涯活躍のまち」検討部会
日時	平成29年1月17日(火) 15:15~16:30
会場	加賀市立中央図書館2階視聴覚室
出席者	(委員) 松下座長、原委員、宇野委員、三本松委員、野澤委員(代理:東出氏) (事務局) 河合副市長、代工市民生活部長、宮地理事、荒谷山中支所長、北七長寿課長、新家振興課長、山下地域包括支援センター所長、大田地域医療推進室長、山村人口減少対策室長、一般社団法人生涯活躍のまち推進協議会 堀田氏
資料	○ 資料1 加賀市版「生涯活躍のまち」基本計画検討資料 ○ 資料2 加賀市版「生涯活躍のまち」基本計画 ~「生涯活躍のまち」に望まれる機能~ ○ 資料3 加賀市版「生涯活躍のまち」構想に係る意見募集及び講演会の開催について ○ 資料4 加賀市版「生涯活躍のまち」構想(素案)
会議内容	
座長挨拶	● 第4回検討部会を開催する。加賀市版「生涯活躍のまち」基本計画について事務局より説明をお願いしたい。
加賀市版「生涯活躍のまち」基本計画について	(事務局より説明:生涯活躍のまち推進協議会 堀田氏) ● 加賀市版「生涯活躍のまち」基本計画について、資料1と資料2を使って説明したい。 ● 資料1の2ページから4ページは、前回説明した加賀市版「生涯活躍のまち」構想の概要版となる。 ● 3ページには、加賀市版「生涯活躍のまち」がもつべき機能として、「多世代交流」「活躍の場」「多世代向け住まい」「ブランディング」「健康増進・ケア」「多世代移住促進」の6つの機能を上げている。 ● 5ページ目には、加賀市版「生涯活躍のまち」基本計画について記載している。基本計画のモデルエリアは、旧山中温泉医療センター跡地を考えている。プロジェクトがカバーするエリアは、地域包括ケアの日常生活圏域のひとつである山中圏域をターゲットとし、プロジェクトの拠点となる交流施設を、旧山中温泉医療センター跡地に設置する形で進めたいと考えている。山中圏域の人口等のデータを参考までに記載した。 ● 旧山中温泉医療センター跡地の利用方法については、7ページにあるように、「高齢者住宅」「多世代交流カフェ」「診療所」「温泉を活用した運

動の場」等とすることを想定している。

- 同跡地の活用方法については、山中商工会をはじめとする地域の方々による話し合いにおいて、6ページにある通り、提言を頂いた。
- これらを受けて、具体的な内容として、「温泉を利用したデイサービスセンター」「学生や社会人の宿泊研修施設」「共同農園」「山の駅として、レストラン併設の特産品等販売所」「子どもたちの遊び場」等であり、これらを基に計画を検討してきたいと考えている。
- 旧山中温泉医療センター跡地内にある「山中温泉ぬくもり診療所」「サービス付き高齢者向け住宅」「北陸大学山中町セミナーハウス」といった既存資源を活かしながら整備を行っていきたいと考えている。また、参考として敷地周辺の公共施設も列記している。拠点の敷地を整備していくことが主な取り組みとなるが、周辺との連携も視野に入れて進めていく。
- 10ページに拠点が持つべき機能を示している。これに関しては、資料2に、「生涯活躍のまち」に望まれる機能として、別途記載している。
- 資料2では、各施設のコンセプト、機能、期待される効果について、星取表の形で示している。1から7までは、交流拠点のメイン施設に持っておきたい機能で、「温泉を活用した健康増進施設」「ウェルネス」「地域交流スペース（カフェ、レストラン）」、また、福祉サービスの機能として「高齢者福祉」「障がい者福祉」を記載している。これに加え、共同農園等で採れた野菜等を販売する「直売所」、加賀市の特徴でもあるものづくりや、若い世代の来所も意識した「ものづくりコワーキングスペース」を設置し、様々な世代が集まれる取組みを進めていきたいと考えている。
- 8から13については、メインの施設ではなく、敷地内の別の場所につくる施設で、若い世代の移住の促進を目指した「若者向けシェアハウス」、「生涯活躍のまち」のメインターゲットとなる中高年齢層向けの「元気な中高年齢者向け賃貸住宅」、周辺に商店街がないという立地条件を鑑みた「共同売店」、移住者や周辺住民のための「共同農園」、子育て世代を意識した「こども広場」、コワーキングスペースの作品や共同農園の収穫物の販売も視野に入れた「定期市」等を考えている。
- 資料1の11ページには、目標設定について記載している。まず、「移住者数」だが、「生涯活躍のまち」では、これを目標設定として掲げていく必要がある。移住者数は、サービス付き高齢者向け住宅やシェアハウスの整備数によって決まってくるが、拠点施設の雇用創出に伴う移住者の増加も期待できる。次に、交流拠点がどれだけ活用されているかとい

	<p>う「拠点交流人口数」も目標数値としてあげている。拠点交流人口の内容については記載の通り（温泉、福祉、レストラン、健康施設、工房、その他の利用者数）だが、これらの数値を上げていくことによって、地域の結びつきをより高めていけるのではないかと考えている。また、「拠点等プロジェクトでの新規雇用数」については、社会参画の機会を提供して「いきがい」や「やりがい」を生み出していくことも重要と考えており、地域交流拠点のパートタイムやワークシェア等を組み合わせながら、新たな雇用を創出していくこととしたい。更に、地域づくりへの積極的な参画も促すため、地域のイベントやボランティアへの参加人数を、「地域活動参加人数」として目標値の中に設定した。加賀市は、中高年齢者のみならず、次世代の育成にも力を入れることとしていることから、「次世代育成事業等との連携数」も目標設定に組み入れている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 12 ページには、事業運営主体について記載している。事業運営主体は、「地域交流拠点の運営」「多世代交流の促進」「住民の就労機会提供」「社会参画の促進」「住まいの提供」「関連プロジェクトとの連携促進」等の役割を担うこととなる。運営形態・選定方法は資料記載（民設民営・公募を基本）の通り。想定される民間法人の例では、「中高年齢者向け賃貸住宅事業を核とする法人」「福祉サービス（高齢者福祉・障がい者福祉、医療、保育等）を事業の核とする法人」「まちづくり会社（多様な担い手が連携して法人を設立）」等がある。 ● 以上のことを踏まえて基本計画を策定していきたいと考えている。特に機能や目標設定については委員の皆さんの意見をお聞かせ頂きたい。
<p>質疑</p>	<p>(松下座長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 加賀市版「生涯活躍のまち」基本計画に関し、今の説明に対して意見や質問は？ <p>(松下座長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 目標設定の考え方に関し、もう少し大きな目でとらえた方が良いのではないか？ <p>(山村人口減少対策室長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 加賀市は、昨年 10 月に「まち・ひと・しごと総合戦略」を策定したが、2040 年に加賀市の人口を 6 万人以上維持するという目標の下、4 つの基本目標「①加賀市に仕事をつくり、安定した雇用を創出すること」「②加賀市への新しい人の流れ、移住・定住を促進すること」「③若い世代の結婚・子育ての願いをかなえること」「④安心して暮らせるまちづくり」を掲げて、包括的に人口減少対策を行うこととしている。加賀市版「生涯活躍のまち」基本計画は、この基本目標のうち「加賀市への新し

い人の流れをつくる」に対応して策定している。質問のあった「全体としての目標設定」については、この「まち・ひと・しごと総合戦略」において位置付けられているところ、その数値を加賀市版「生涯活躍のまち」基本計画に反映することができるか、次回の検討部会までに事務局で検討することとしたい。

(東出委員)

- 目標に関し、目標を達成したか、達成しないかについては、どのように測っていくことになるのか。

(堀田氏)

- 「生涯活躍のまち」は政府の地方創生に係る取組みのひとつであるが、取組みには目標(KPI)を設定するようになっている。達成できなかった場合について明記されていないものの、達成できるよう努力すべきものである。協議会等において、目標値を達成できるように協議し、取組みを行っていくこととなる。

(東出委員)

- 事業は公募で選んだ民間事業者に委託して実施していくこととなるが、実際の事業に対応した目標設定を行っていくことになるのか。

(堀田氏)

- 公募の段階においてある程度の目標の目安、考え方を提示する必要があると思われる。

(松下座長)

- 資料2に1から7までの拠点施設について記載されているが、これらの施設は新しく建てるということか。

(堀田氏)

- 旧山中温泉医療センター跡地で現在使っている施設以外は、新たに建設していくというイメージ。

(松下座長)

- 跡地には既に高齢者向けの施設があるが、これは既存施設として考えていないのか？

(堀田氏)

- 既存施設と考え、連携していくことを想定。

(原委員)

- 資料2に、拠点に望まれる機能について書かれているが、運営主体にとってみれば、幅広い分野という印象。現在、介護サービスの事業に関わっているが、拠点にはレストランやカフェの施設もあり、複合的に対応できる事業体のような形にしていけないと運営するのは難し

く、どこが事業主体としてやっていけるのか。公募してすぐに事業者が集まるか疑問である。

(堀田氏)

- 民間が運営するためには、1 から 13 までの機能を持ちつつ、運営主体が収益を上げていかなければならない。他の機関と連携するにしても、不採算部門をどうしていくのか等の調整が必要になる。とくに、交流拠点運営収益の核としていくことを想定しているため、まち・ひと・しごと創生本部から例示されるビジネスモデルを示し、事業者から手が上がりやすい環境を作ることは大切。

(宇野委員)

- 目標設定に関し、「まちづくりはひとづくり」といわれるが、どのような人が移り住んでくるイメージなのか？

(堀田氏)

- 検討会委員のオブザーバーである嵩氏から、その点について意見を聞いた。
- 移住促進には、移住者のターゲットをしっかりと絞り、移住後にどんな生活が待っているのかについてもしっかりと打ち出すべきで、加賀市の特徴でもある「ものづくり」というキーワードに惹かれてくる人をターゲットにするのが良いのではないかとコメントを得ている。これも踏まえ「ものづくりコワーキングスペース」を基本計画に組み込んだ。そのほか、例えば中高年齢者向け住宅にも工房を付けることができれば、他の地域との差別化も図れる。そういったことも形成事業計画では検討できると思われる。

(東出委員)

- 移住してくる中高年齢者は、趣味が主体なのか？それとも、働きながら収入を得るといったイメージなのか。

(堀田氏)

- 若い世代については、加賀市が取り組んでいる「ローカルベンチャー」や「若者等就労支援」で起業、就業を想定している。また、「生涯活躍のまち」のメインターゲットを 40 歳代以上としており、現役世代のイメージ。

(山村人口減少対策室長)

- 補足で説明すると、この会議のタイトルは「加賀市定住促進協議会 加賀市版「生涯活躍のまち」検討部会」であり、この部会の親組織として「加賀市定住促進協議会」がある。これは加賀市の産業界の各種団体の長に参加頂いて構成されている。移住の際のポイントは仕事、住

まい、子育て等であり、定住促進協議会では事業所代表へのインタビューや求人情報を、ホームページ等での情報発信に努めている。「生涯活躍のまち」は、40歳代以上の元気な中高年齢者をターゲットとしているが、これはまだ現役で働ける世代であり、仕事の紹介やマッチングを定住促進協議会で取り組んでいる。

(定住促進協議会事務局 高峰氏)

- 実際の移住相談では、温泉の近くに移住したい、家庭菜園を持ちたい等の希望が多く、これらの方に対しては、施設への入居を提案していくことが可能であり、「元気な中高年齢者向け賃貸住宅」の入居者は、比較的容易に確保できるのではないかと。「若者向けシェアハウス」については、「ローカルベンチャー」への参加者が既に十数人見込まれており、まずは若者向けシェアハウスに住んでもらうことも一案と考える。「ローカルベンチャー」のような具体的なプロジェクトの情報発信を行いながら、移住希望者を募り、顔の見える関係をつくっていくことが、事業の円滑化につながってくるのではないかと。

(宇野委員)

- 地域交流スペースのカフェやレストランは、入居者がコックになったり運営に携わったりするのかな？

(堀田氏)

- それも可能だが、仕事を希望する移住者には、ワークシェアの形をとりながら、拠点における労働機会を積極的に提供していきたいと考えている。

(松下座長)

- 「こどもひろば」とあるが、子どもを大事にする機能は他にはないのかな？

(堀田氏)

- 子育て世代向けの住宅の分譲もできればよいと考えている。「生涯活躍のまち」には様々な世代がいることが望ましく、何より子どもがいる地域は元気に見えることから、子育て世代に移住して欲しいと考えているが、事業者のハードルが上がり過ぎるのを避けるため今回の基本計画には入れていない。しかしながら、小学校も近くにあることから、子ども達に開放できるスペースを拠点に入れておきたいと考え、「こども広場」の機能を組み込んだ。

(原委員)

- 子育てに不安を抱えている世代もあり、「子育て支援センター」のような機能があれば、人が集まってくるのではないかと。

	<p>(堀田氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● できるだけたくさんの機能があれば、様々な人が来ることにつながると考えている。 <p>(三本松委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 交流拠点の機能に「障がい福祉」とあるが、障がい者に拠点の中で働いてもらうということも含まれているのか？ <p>(堀田氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「障がい福祉」の機能には二つの意味があり、一つ目は、福祉サービスの機能があることによって、常に人がいる場所となりうること。二つ目は、就労支援の仕組み、福祉サービスの仕組みを入れることで、経営的にもプラスになるということである。 <p>(宇野委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 既存施設の中に、北陸大学のセミナーハウスがあるが、学生がゼミをやって帰る（ゼミだけに使用する）というスタイルではなく、新しいまちづくりに学生たちも参画し、どうしたら新しいコミュニティをこの地で作ることができるのか、提言も含めて学生が関わっていくという発想を持っていただきたい。 <p>(河合副市長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 同様な話が前回の検討部会でも議論されている。資料4「加賀市版「生涯活躍のまち」構想素案」の10ページ目「2. 加賀市版「生涯活躍のまち」に求められるべき機能」という記載があり、その中の「活躍の場づくり」のところで「大学や地元の高等学校、中学校と連携した生涯学習の場やものづくりに取り組むことができるコワーキングスペースの整備など、住民が自分のスキルを活かしたり知的好奇心を満たしたりする場づくりを進める」とある。生涯学習というと中高年齢者層向けのイメージがあるが、前回の検討部会でも議論された通り、地元の中高校を巻き込んで、大学が研究機関としてまちづくりに関与していくことが重要であり、これを加賀市版「生涯活躍のまち」構想素案に加えている。 <p>(松下座長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各委員の皆さんから大変貴重な意見を頂いた。頂いた意見については事務局の方で基本計画等への反映を検討された。 ● 続いて事務局より「その他」についてお願いしたい。
その他	<p>(山村人口減少対策室長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 資料3に関し、加賀市版「生涯活躍のまち」構想に関し、前回の検討部会において委員より意見を頂いたが、頂いた意見をまとめたものが

	<p>資料4となっている。1月18日から2月14日までの4週間、意見募集を行いたいと考えている。募集・閲覧方法については、素案を市のホームページに掲載する他、人口減少対策室、山中温泉支所、市役所の各出張所、各図書館、各地区会館に設置し、閲覧できる形にする。また、「広報かが」にも募集記事を掲載し、周知を図る予定。意見の提出方法は、市のホームページ等に所定の様式を設置するので、そちらに記入頂き、郵送、ファックス、電子メール、持参等で人口減少対策室に提出頂くこととなる。頂いた意見に対しては、市のホームページで回答する。回答の前に、3月の第5回検討部会にて検討したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 講演会の開催について、2月28日18:30より市民会館大ホールにおいて、元内閣官房「まち・ひと・しごと創生本部」事務局地方創生総括官の山崎史郎氏を迎え、「生涯活躍のまち」についての講演会を予定している。タイトルは調整中だが、「生涯活躍のまち」「地方創生」について話を頂くこととなっているので、各委員の皆さんにも積極的な参加をお願いしたい。 ●
閉会	<p>(松下座長) 活発な議論ありがとうございました。</p> <p>(代工市民生活部長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本日はご出席ありがとうございました。加賀市には、本構想が現在必要であるということをご理解頂けていると考えている。委員の皆さんから頂いた意見や質問を踏まえ、山中温泉における基本計画を文書化していく。2月は検討部会を開催しないため、基本計画については個別に訪問し、説明することとしたい。次回、第5回検討部会は最終回となるが、3月28日に開催する予定。加賀市版「生涯活躍のまち」構想、及び、基本計画を承認頂く場となるので、ご出席をお願いしたい。 <p>(宮地理事)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 以上をもって、第4回加賀市版「生涯活躍のまち」検討部会を終了します。